

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年8月1日（金）

2 確認箇所

- ・使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（図1）
- ・瓦礫類一時保管エリアDD（図1）
- ・危険物屋外貯蔵タンク（図1）

3 確認項目

- （1）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況
- （2）瓦礫類一時保管エリアDDの状況
- （3）危険物屋外貯蔵タンクの状況

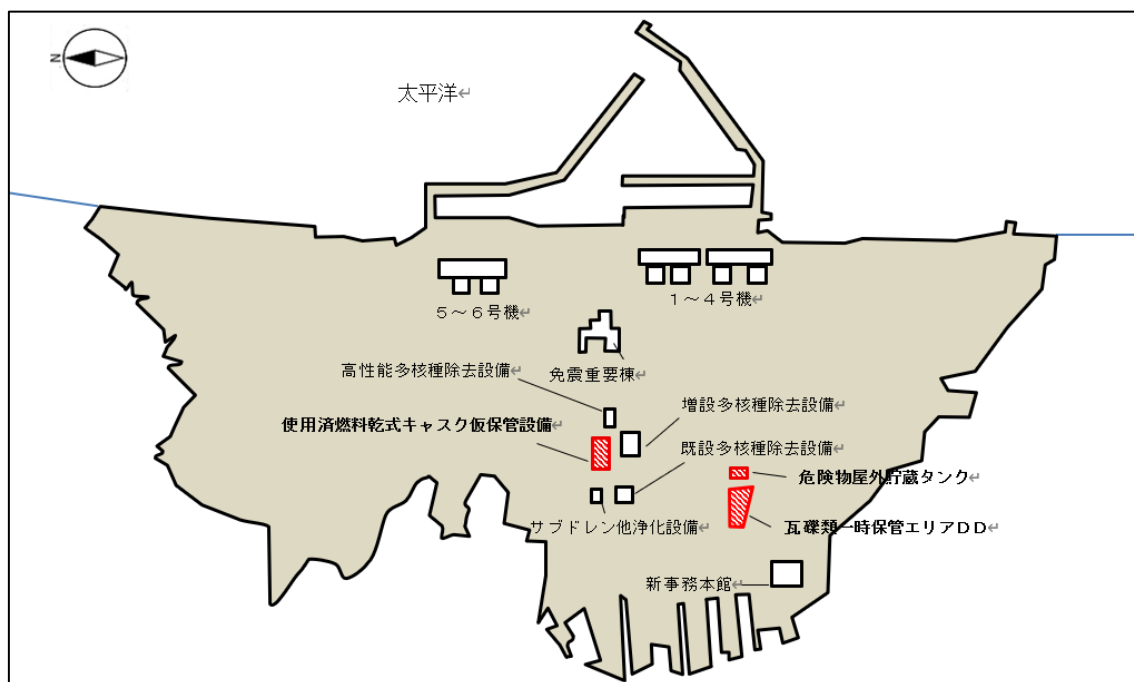
4 確認結果の概要

（1）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況

東京電力では、各原子炉建屋の使用済燃料プールで保管している使用済燃料について、より安全性の高い共用プールにおいて集中管理するため、各使用済燃料プールから共用プールへの移送を進めている。また、今後、1、2、5号機からの使用済燃料を共用プールに受け入れるため、十分に冷却が進んだ使用済燃料は乾式キャスク（1基あたり使用済燃料を69体保管可能）に装填し、構内の使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（以下「乾式キャスク仮保管設備」という。）に移送することで、共用プールの保管容量確保を進めている。なお、令和7年7月末時点で、乾式キャスク仮保管設備には65基の乾式キャスク（現時点において保管容量満量）が保管されており、今後、乾式キャスク仮保管設備の保管容量を30基増設する計画となっている。

乾式キャスク仮保管設備敷地東側では、保管容量を増やすための拡張工事が進められていることから、その進捗状況を確認した。（前回確認：[令和7年4月28日](#)）

- ・保管設備敷地拡張箇所にてコンクリート基礎の配筋作業等が進められていた。（写真1）
- ・工事に使用する資材は、ワイヤー等で縛られており、整理された状態で保管されていた。（写真2）
- ・確認した範囲において、不適切な管理箇所はなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1) コンクリート打設の状況



(写真1-2) 型枠の設置状況(外周)



(写真2) 工事用資材の仮置き状況

(2) 瓦礫類一時保管エリアDDの状況

福島第一原子力発電所では、令和5年10月以降、廃棄物保管業務の効率化及び一時保管エリアの有効活用のため、一時保管エリア6箇所（エリ

アF1及びF2、エリアX及びn、エリアDD1及びDD2)を3箇所(エリアF、エリアX、エリアDD)に統合し、一時保管エリアを運用している。

今回は統合された一時保管エリア3箇所のうち一時保管エリアDDの状況を確認した。(前回確認：[令和5年6月29日](#))

- ・一時保管エリアDDの入口は、単管バリケードで仕切られており、バリケードにはエリア名や付近の線量率等が掲示されていた。(写真3)
- ・確認した範囲において、コンテナ積み上げに歪み等はなかった。(写真4)
- ・前回確認時同様、一時保管エリアDDにはコンテナが2～3段積みで置かれていた。保管数は前回確認時に比べて増加していた。今回確認したところ、現在はコンテナに未収納の瓦礫類も保管されていた。なお、未収納の瓦礫類周辺はY装備ゾーンとなっており、単管バリケードでY装備ゾーンとG装備ゾーンが分けられていた。(写真5)



(写真3)エリアDD入り口の標示



(写真4)コンテナの保管状況(東側から撮影)



(写真5-1)一時保管エリアDDの状況(北側から令和5年6月29日撮影)



(写真5-2)一時保管エリアDDにおける瓦礫類の保管状況(北側から令和7年8月1日撮影)

(3) 危険物屋外貯蔵タンクの状況について

令和5年5月22日に、危険物屋外貯蔵タンクのNo.1電気絶縁油タンクのブリーザ部※からPCB含有絶縁油が漏れ出した。

漏えいした絶縁油は、堰内に留まっており、堰外への流出はなく、吸着マットによる漏えいした絶縁油の回収、ブリーザ部の絶縁油の抜き取り等の対応が実施された。本日は、危険物屋外貯蔵タンクのその後の状況について確認した。

※ ブリーザ部：空気・圧力を放出する通気孔

- ・防油堤内に水・油分は溜まっていなかった。また、確認した範囲において油の漏えい等の異常はなかった。(写真6)
- ・既設の危険物屋外貯蔵タンク (No. 1～No. 10) の北側では新設タンクの建設が完了していた。(写真7)



(写真6) 既設タンクの設置状況



(写真7) 新設タンクの設置状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。